

児童・青少年演劇ジャーナル

げき 2

好評
発売中！

編集・発行=児童・青少年演劇ジャーナル〈げき〉編集委員会

定価●1200円+税

児童青少年演劇については、かねてから「批評の不在」が叫ばれ、「情報の偏在」が指摘され、戯曲の発表の場がないことが、問題にされていた。
観客の側からは、児童青少年演劇の世界を、文字情報として総合的に把握する手段がないことが指摘され、創造側からは、より高い創造を目ざすための、研修の手がかりがもとめられていた。
こうした要望に応えるための、新雑誌発刊なのである。——編集代表=ふじたあさや（創刊号・巻頭言より）

子どもと演劇のよりよい出会いを求めて——

- 演劇鑑賞は子どもの何を育てるの？—演劇鑑賞の意義をさまざまな角度から追及。児童・青少年演劇の歴史・広がりを検証。
- いま、どんな劇を子どもに見せればいいのか？—児童・青少年演劇評、新作紹介、劇団紹介、子どものための劇戯曲掲載。
- 地域の文化活動全体をどう育てたらいいのだろうか？—地域の話題、先進的な試み、海外の事例などを紹介。
- 児童・青少年演劇演劇づくりの課題は何だろうか？—演劇創造のための誌上ワークショップや提言を掲載。

人間が人間であるために不可欠なもの=中村桂子

[特集1]「演劇」をどう教えるか？

「座談会」**「演劇教科書」編集会議録**

=別役 実+内木文英+ふじたあさや

[連載] 誌上ワークショップ2 表現教育の現場から=西田豊子

[特集2] 演劇で地域を変えられるのか？=松本則子

[劇評] 児童・青少年演劇の舞台から

安住恭子/七字英輔/岩崎 明/土居安子/関 明/神沢利明

[エッセイ] カーテンコール=中村美代子/藤崎万喜男

げき 2

目次から

[インタビュー] 自分史としての児童・青少年演劇2
児童・青少年演劇を60年

劇団風の子・多田 徹 さんに聞く

[初日拜見] 劇団仲間『小さなソフィーとのつぼのバタバタ』

[劇団訪問] 劇団らくりん座 ■民族歌舞団 荒馬座

[連載] 劇作なるものをめぐって=中村欽一

[戯曲] 『はやてに走れ あまんじゃく』

=しかたしん 劇団さっぽろ上演作品

[解説] しかたしん 戯曲小論=井上満寿夫

[戯曲] お伽芝居『春若丸』=巖谷小波

[解説] 巖谷小波と児童劇=岡田 陽

[報告]
学校週五日制と鑑賞教室

児演協・全国小学校
鑑賞教室実施校調査

定期購読をお願いします！
年2回発行の本誌を確実にお届けするため
ぜひ、定期購読をお願いいたします。
毎号、刊行次第お届けします。

●本誌「げき」の刊行には、社団法人日本児童演劇協会、日本児童・青少年演劇劇団協同組合（児演協）、全国児童・青少年演劇協議会（全児演）の三団体が協同して取り組みます。●定期購読は下記の児演協事務局へお申し込みください。●本誌の普及にぜひご協力をお願いいたします。ご協力いただける個人・劇団・団体の方はぜひ下記の児演協事務局へご一報をお願いいたします。

●定期購読お申し込み・お問い合わせは——

児演協事務局 〒160-0023 新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 2-4 TEL 03-5909-3064 FAX 03-5909-3065

発売・**晩成書房** 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 1-4-4 TEL 03-3293-8348 FAX 03-3293-8349 mail@bansei.co.jp

注文書

●お申込み先は

児演協事務局

FAX 03-5909-3065

| | | |
|-------------------------------------|---|---|
| ご注文 | ●お申込先 児演協事務局 〒160-0023 新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 2-4 FAX 03-5909-3065 | |
| 冊 | 児童・青少年演劇ジャーナル げき 2 発売・晩成書房 ●定価 1200円+税 | |
| お名前・劇団名 | 住所 □□□-□□□□ | |
| 劇団の場合 ご担当者名 | | |
| 電話 () | メール | @ |
| 定期購読お申し込み欄 () 定期購読する。次号からも同数購読します。 | | |